



春日井市
「校務の情報化」による
業務改善の取り組みから

27. 10. 30

春日井市立出川小学校

校長 水谷年孝



1 はじめに

春日井市とは

- 人口約31万
- 児童生徒数 約27000人
(各学年 3000人)
- 学校数53校 小38校
中15校
- 教職員数約1700人



春日井での「教育の情報化」

1999年 校務の情報化 校務支援システム開発



2006年 普通教室への実物投影機・電子黒板整備



2011年～ 出川小 学習規律の徹底+ICT日常活用



2014年～ 1人1台の
ICT活用

今後



2013年～ 全校への
水平展開



春日井市の一般的な教室の姿



明して

$$\begin{array}{r} 31 \\ 15 \overline{) 473} \\ \underline{45} \\ 23 \\ \underline{15} \\ 8 \end{array}$$

かめもしましょう。

③ $370 \div 40$

④ $650 \div 70$

④ $182 \div 26 = 7$

A. 7まい

$$\begin{array}{r} \times 7 \\ 26 \overline{) 182} \\ \underline{182} \\ 0 \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 26 \\ \times 7 \\ \hline 234 \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 26 \\ \times 7 \\ \hline 182 \end{array}$$

⑤ $115 \div 35 = 3$ あまり10

$$\begin{array}{r} \times \\ 35 \overline{) 115} \\ \underline{105} \\ 10 \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 35 \\ \times 3 \\ \hline 105 \end{array}$$

A. 3束できて10

どの教室でも、無理なく、日常的にICTを活用



27年2月出版

春日井市立出川小学校の取り組み

学習規律の徹底と ICTの有効活用

～わかりやすい授業の実現をめざして～

福田 雅夫 著

春日井市教育委員会・春日井市立出川小学校 共著



春日井市教委 と 出川小学校 共著



教育用ICT整備状況

		小学校	中学校
1	教育用コンピュータ1台あたりの児童生徒数	7.9人/台	10.6人/台
2	1校あたりの電子黒板の整備台数	5.4台	5.0台
3	電子黒板のある学校の割合	100%	100%
4	普通教室のLAN整備率	100%	100%
5	インターネット接続光ファイバー30Mbps以上	100%	100%
6	教員の校務用コンピュータ整備率	116.4%	111.7%
7	校務支援システムの整備率	100%	100%
8	デジタル教科書の整備率	100%	100%
9	プロジェクター・実物投影機整備台数	716台 1.11台/CL	147台 0.51台/CL
10	大型TV(プラズマ50インチ)整備台数	400台 0.62台/CL	103台 0.36台/CL
11	無線LAN環境・個人用情報端末	一部のPC教室 出川小5教室	職員室全校
12	ハルネット 春日井市教育ネットワーク	1999年整備	



2 本市が進めてきたこと

本市がこの15年で取り組んできたこと

「ハルネット」を中心とした教育の情報化
特に、「校務の情報化」を起点にして

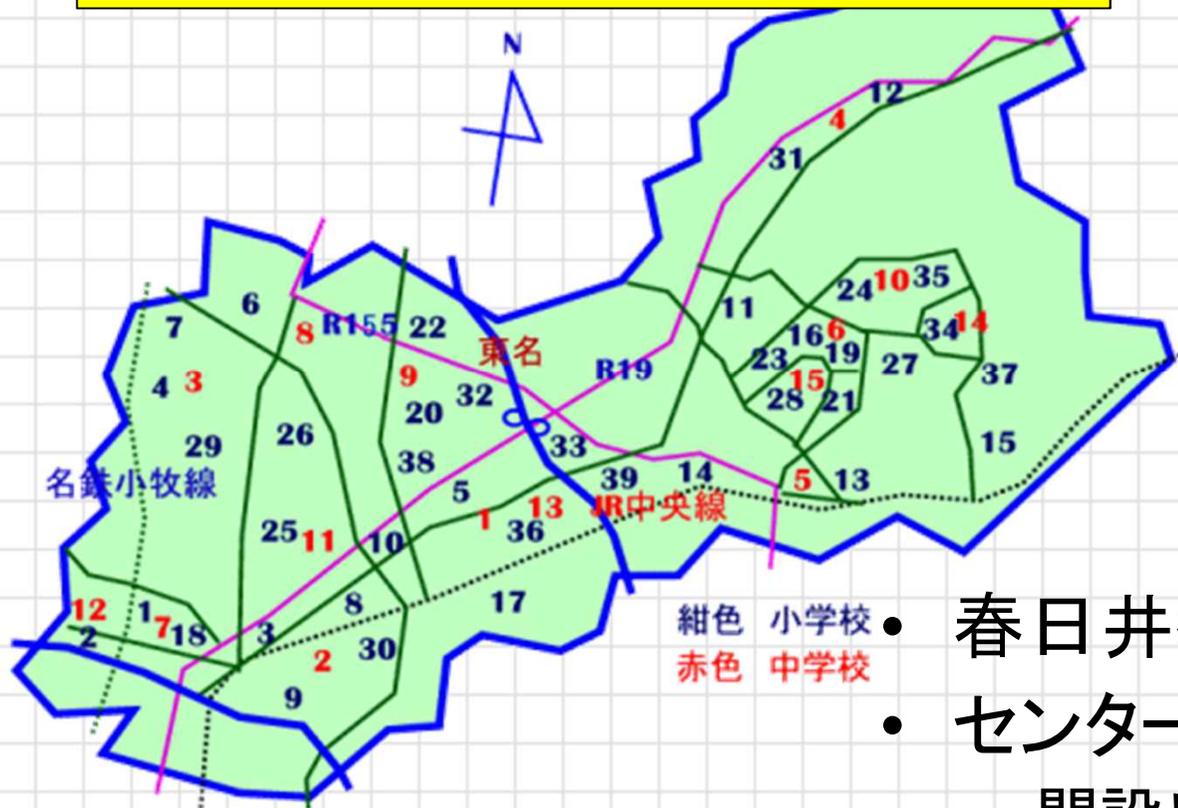
* 最近は授業でのICT活用へシフト

「ハルネット」＝「春日井教育ネットワーク」

“haru-net”



ハルネットとは



紺色 小学校
赤色 中学校

- 春日井教育ネットワーク
- センター集中型のネットワーク
 - 開設以来16年目
(平成11年10月運用開始)
 - 53校がセンターと光専用線接続



ハルネット以前

バラバラ!

- 各校がバラバラな独立体
- 学校間での情報共有不完全
- いろいろな処理システムも各校バラバラ
- 情報を共有するという発想なし
- 公的な情報・組織の情報であるという意識なし 公私あいまい
- 無駄な書類、無駄な作業いっぱい

ハルネット以降

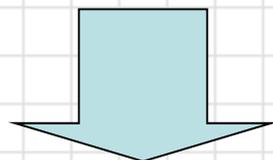
つながった！

- 学校間の連携・共有強固に
- それぞれの職種の横のつながりができた
- 学校間、職員間の情報伝達・共有のツールとしてごく普通に活用中
- 無駄を減らそうとする動きが活発化→業務改善



この15年を振り返って 校務の情報化を成功させる秘訣

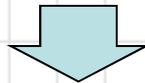
どんな機器やどんなシステムを導入するかよりも



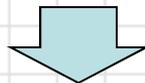
- 1 活用する業務の明確化と業務の見直し
- 2 使わざるを得ない仕組みづくり
- 3 活用をささえる組織づくり

結果的に

ネットワーク活用促進のため



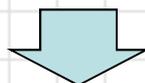
業務の見直し・共通化



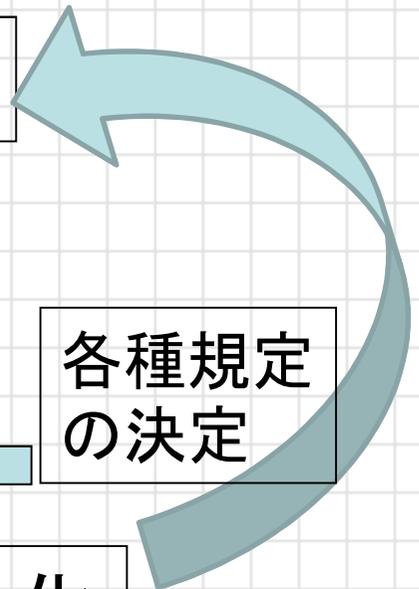
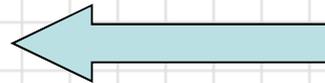
校務の情報化

各種規定
の決定

15年前に
「校務の情報化」
という考えはなかった

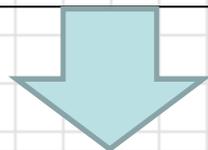


各種帳票などの電子化



3 活用したい業務の明確化 と業務の見直し

校務支援システムを導入すれば進むのか？



まずは、業務の見直し・情報化の検討

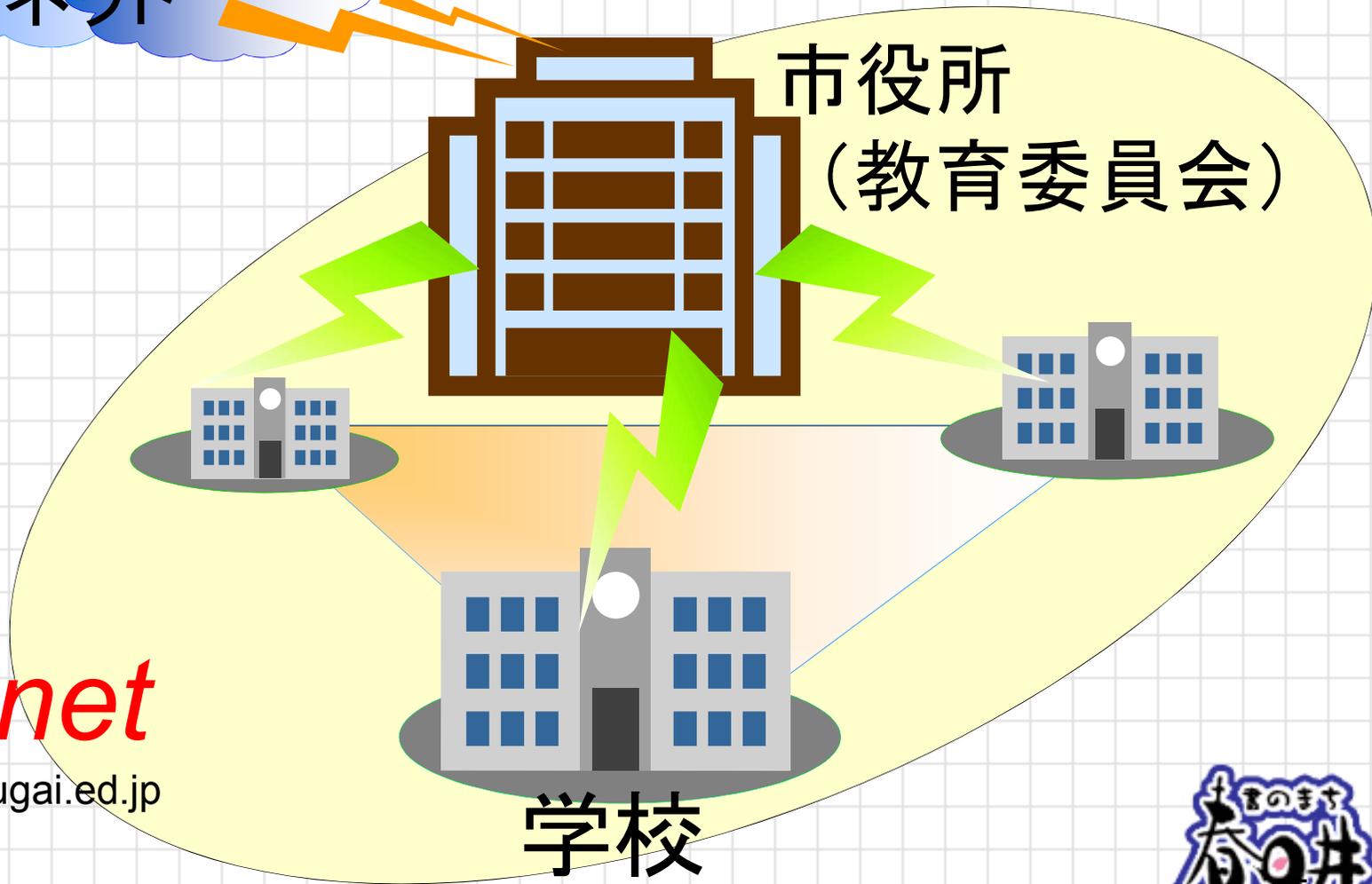


多忙化解消・負担軽減
精神的余裕と子どもに向き合う時間へ



キーワード「教育情報の共有」

インターネット

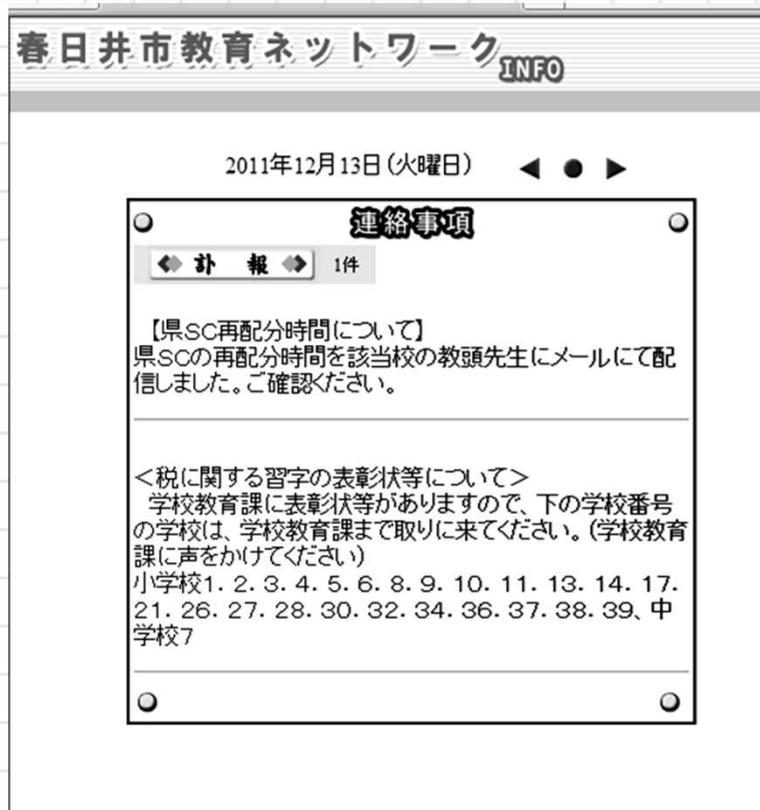


haru-net

<http://www.kasugai.ed.jp>



連絡掲示板の運用



- 伝達情報の共有
 - 市教委からの連絡
 - 校内の連絡

朝の打合せの廃止や時間短縮



子どもと向き合う時間へ

初期の市内連絡掲示板



全体への連絡掲示板

最近の校内連絡掲示板

運動会練習予定表について

運動会練習予定表を拡大してけい示しました。
空いているところを取りたい場合には、付せんを貼ってください。重なったところは、交渉・相談してください。
よろしくお願いします。

新 デジタル教科書(コネッツ)の 説明書について

新デジタル教科書(コネッツ)の説明書を発見しました。

PDF形式です
「学校フォルダ」→「22 情報・視聴覚」→「デジタル教科書 マニュアル」
においてあります。

必要に応じて印刷等してご利用ください。

県通知「教職員の不祥事防止及び サービス規律の徹底について」

4月21日付の県からの「不祥事根絶」に関する通知文です。必ずお読みください。[こちらをクリックしてください](#)

5月市校長会議報告

5月1日の市校長会議報告です。→[こちらをクリックしてください](#)

生活安全委員会の活動について

5月12日(火)より常時活動として安全パトロールを始めます。
火曜日に6年、木曜日に5年が20分放課にビブスを着て校内を巡回します。よかったところ、悪かったところをチェック表に記入します。
それぞれが次の日、お昼の放送で
・〇年〇組の教室で鬼ごっこをしている人がいました。天気のいい日は外で遊 びましょう。
・〇年生が廊下を静かに歩いていました。これからも続けましょう。
などと呼びかけをしていきます。よろしくお願いします。



校内各種データの一元管理

各種データの流れを再確認



業務の見直しで効率化



システム化

各種データを
ミスなく無駄なく有効活用

例
毎日の出欠情報、
在籍管理 など



4 使わざるを得ない

仕組みづくりのために

- そのための手段は・・・「みんな、同じ」
 - ◆データ保存用フォルダ構成の共通化
 - 情報の共有化と実行する動機付け
 - ◆成績処理・名簿管理・図書館システム等の共通化
 - スキルの共有化 + 情報の共有化



「安心感」どこに行っても同じ 無駄にならない

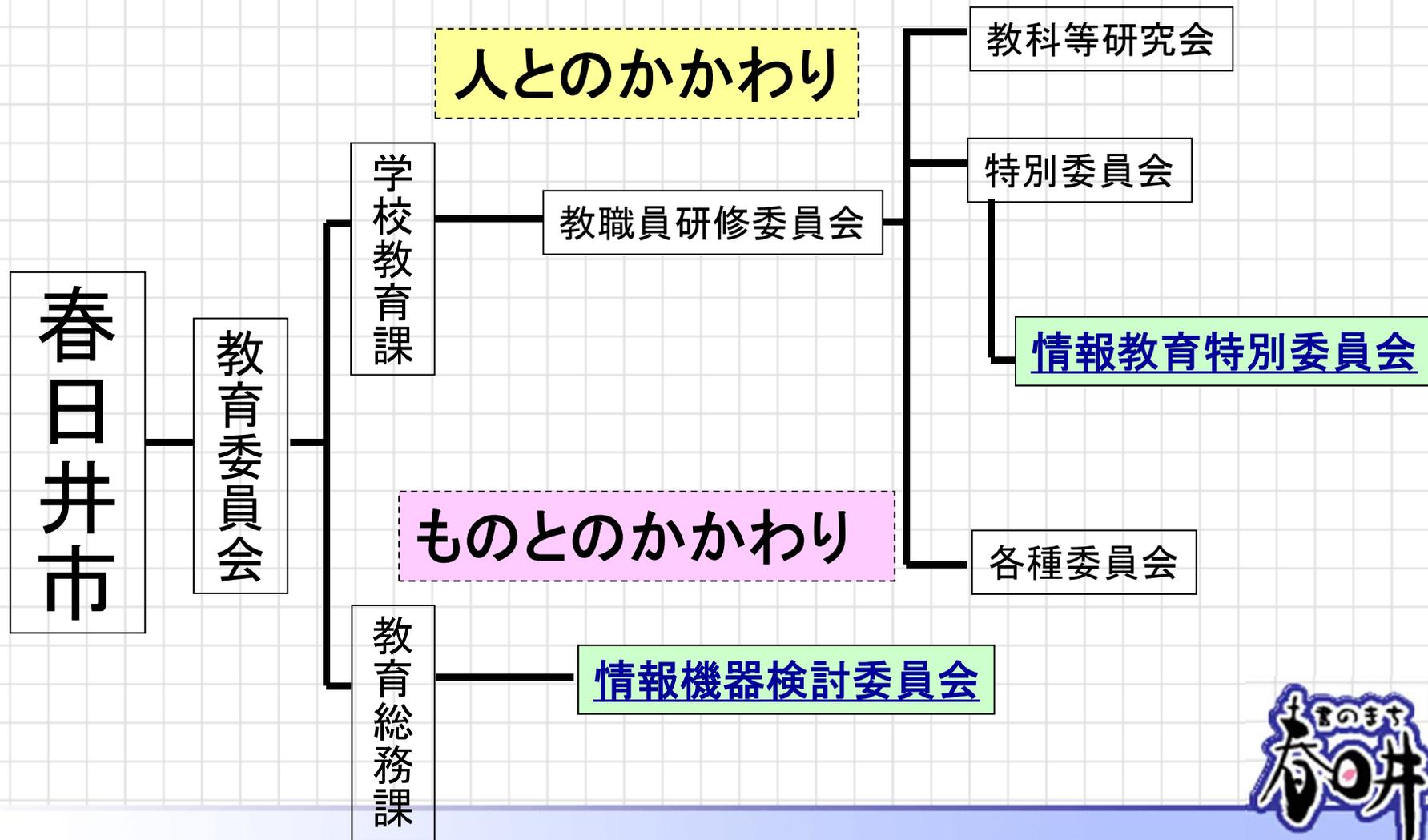
得られたメリット

- ネットワーク(haru-net)っていいね・・・
 - ◆ ハートがつながる
- 情報やスキルの共有・・・市(みんな)の財産
 - ◆ いつでも使える
 - ◆ 誰でも使える
 - ◆ どこでも使える

* 省力化へ



5 活用を支える組織づくり



特徴的なこと №1

情報教育特別委員会

校長	3名
教頭	2名
教務主任	3名
校務主任	3名
一般教員	10名
事務職員	1名

+ サポートチーム

- ・各校の情報教育の推進
 - ・各業種の仲間の広がり
- 管理職同士の情報交換
教務主任研究会
図書館研究会
養護教諭会
事務職員会

・管理職もいれば、日々の授業に生かしたいと強く願う教師やICT機器のエキスパートもいる異業種集団

現場にかかわる人で組織

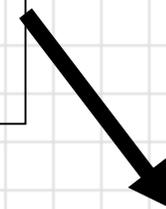


特徴的なこと №2

委員会委員



目標や願いを
持って計画立案



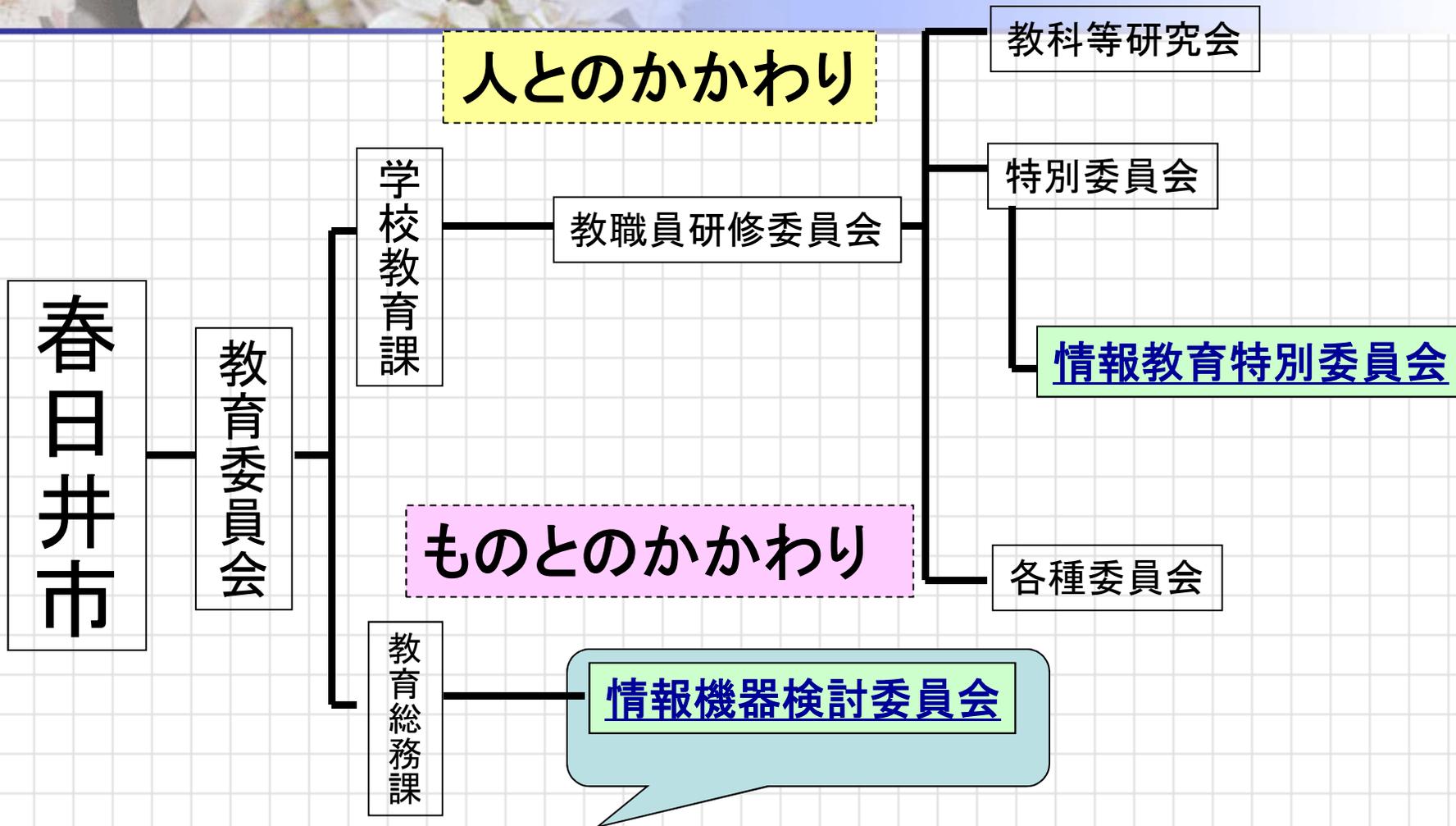
サポートチーム



委員の願いをもと
にICTの可能性
を追究



実現



- ・現場の声を反映した仕様を検討するための組織
- ・情報教育特別委員から委員の一部が参加
- ・行政当局の深い理解



研修会について

- 各種システム・機器導入時の担当者研修
- 各校での研修
- 初任者研修
- 希望者への研修（夏休み）
- その他
管理職対象の研修
教務主任対象の研修 等

* 現在は、授業活用中心



6 最近の取り組みから



春日井市立出川小

ブログ形式の学校Web
* 毎日更新

ホームページ 学校日記 授業研究・授業公開 配布文書 暴風警報発令時の登下校 緊急の連絡・お知らせ 月予定・行事予定 市内

位置: トップページ > 学校日記

文字: 大きく | 小さく | 標準 配色: 通常 | 白地 | 黒地

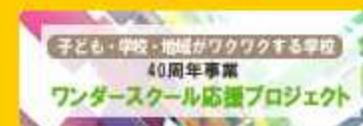
カテゴリ

▶ TOP

- 今日の学校
- お知らせ
- 授業研究・研究発表会
- 校長室から
- 児童会
- 保健室
- 緊急の連絡・お知らせ
- PTA
- 野外学習
- 修学旅行
- 緊急メール登録について

今週の授業から

たいへん過ごしやすい季節になってきました。ただ、朝夕の気温がぐっと下がり寒暖の差が激しいので体調管理には十分ご注意ください。写真は、今週の授業の様子です。授業への取り組み、とてもいい感じです。ノートも。



アンケートシステム →小刻みなアンケートの実施

1 学校での子どもの様子

学校でのお子さんの様子や出川小の子どもたちの様子について、該当するものを選択してください。

- よくわかった・理解が進んだ まあまあわかった あまりよくわからなかった

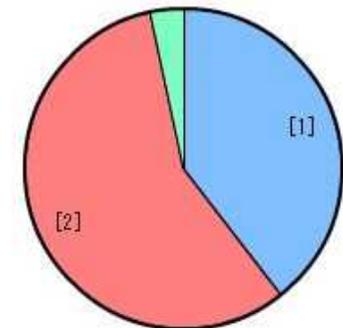
1 学校での子どもの様子

選択入力 [非回答可]

設問 : 学校でのお子さんの様子や出川小の子どもたちの様子について、該当するものを選択してください。

有効回答 : 有効回答 266、非回答 1 99.6

No.	選択肢	選択数	%	グラフ	凡例色
1	よくわかった・理解が進んだ	105	39.3%		■
2	まあまあわかった	152	56.9%		■
3	あまりよくわからなかった	9	3.4%		■
合計		266	99.6%		



この他にも

- ・いいところみつけ
- ・施設予約 ・生徒指導日誌
- ・文書配信 ・保健室日誌
- ・健康診断個表（保健システム）
- ・防犯カメラ
- ・進路関係書類
- ・給食注文、徴収金システム

7 授業改善の取り組み

出川小のICT活用

大きく見せる
日常的なICT活用
みんなで使う





出川小の取り組み

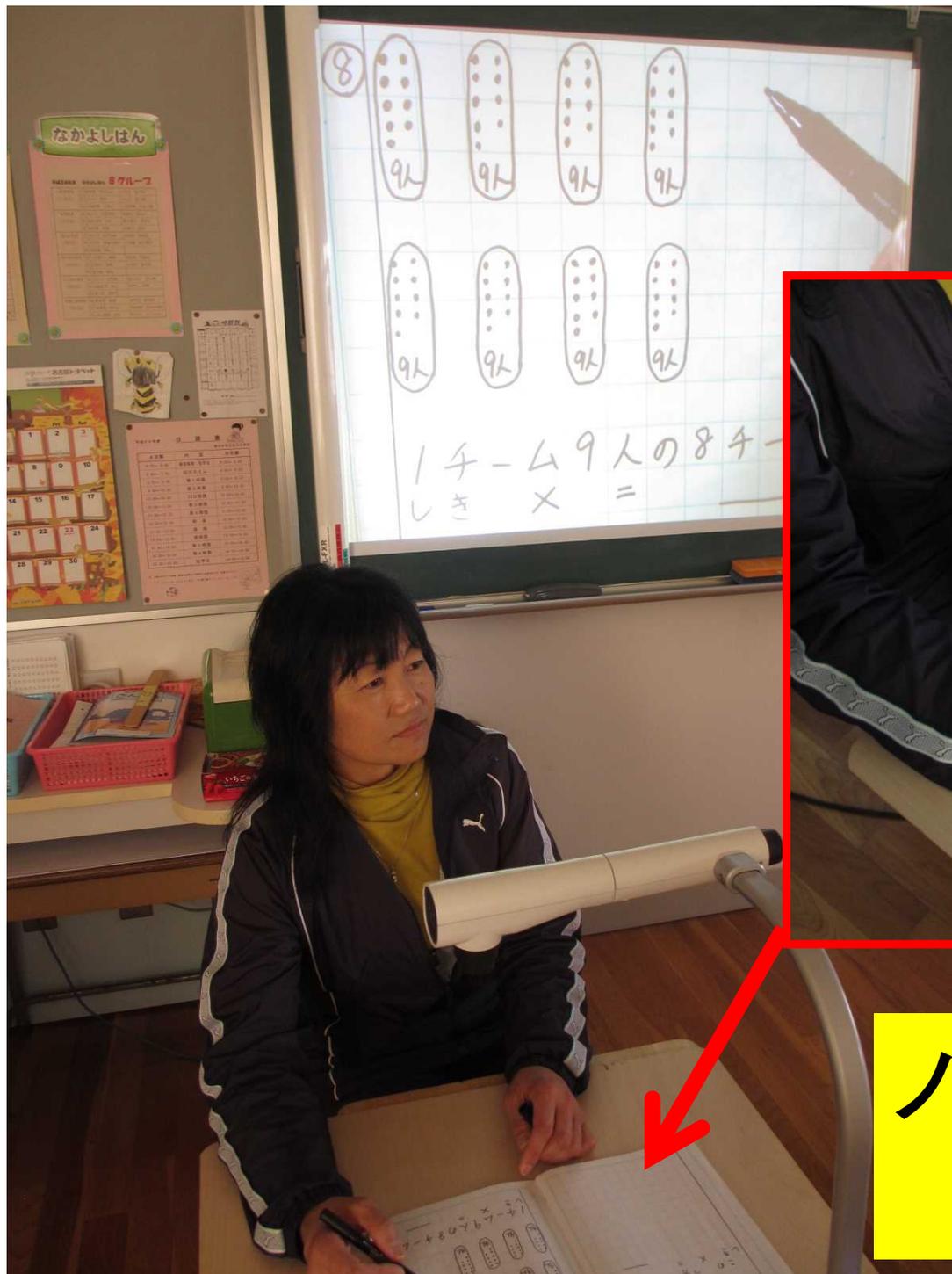
1 日常的なICT活用

2 学習規律の徹底





大きく見せると 伝わる



ノート指導も
確実にできます

「出川小の研究成果」の発信・還元

- 1 「かすがいスタンダード」の発信
- 2 出川小「公開校内研」での
教務主任研修の実施
- 3 市教委と連携した校内研修
の進め方モデルの構築



「かすがいスタンダード」

- ・児童・生徒の学力の保障のために
- ・**学習規律の徹底とICTの有効活用**
- ・わかりやすい授業を日常的に展開するための**学習指導**や**学習環境**



教務主任研修会

- 1 参観する授業、グループ編成を指定
- 2 指導案は事前配付
- 3 参観の観点を課題にして、教務主任が情報発信
- 4 観点に従ってデジカメ撮影 場面を切り取って解説
- 5 研究協議、検討の仕方の模擬体験
- 6 参加前後のMLでの情報発信・共有

管理職研修

昨年度から実施している出川小公開校内研での教務主任研修会のエッセンスを学んで各校での実践に役立てる。

- ・かすがいスタンダードの理解
- ・研修方法体験

つながる研究推進モデル

自治体と学校とのつながりによる
日々の授業改善につなげる研究推進のモデル



春日井市教育委員会 ● 春日井市立出川小学校

校内研修モデルに
ついての
リーフレット作成

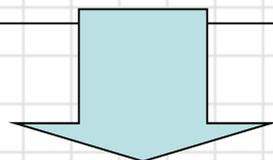
by パナソニック
教育財団25年度
一般実践研究助成



8 まとめ

この15年を振り返って 校務の情報化を成功させる秘訣

どんな機器やどんなシステムを導入するかよりも、



- 1 活用する業務の明確化と業務の見直し
- 2 使わざるを得ない仕組みづくり
- 3 活用をささえる組織づくり

まとめ

「実現できたこと」



- 業務改善が進み、子どもと向き合う時間増加
- 教育情報の共有をかなりの部分実現
- 市全体のスキルアップ
- 同じ作業環境の保障
→どの学校でも同じという安心感・省力化
- システム化による作業時間の短縮



スキルアップ

平成26年度学校における教育の情報化の実態等に関する調査(文科省)	「わりにできる」もしくは「ややできる」と回答した割合	
	全国平均	春日井市
A 教材研究・指導の準備・評価などにICTを活用する能力	82.1%	87.5%
B 授業中にICTを活用して指導する能力	71.4%	84.0%
C 児童・生徒のICT活用を指導する能力	65.2%	70.3%
D 情報モラルなどを指導する能力	77.7%	80.0%
E 校務にICTを活用する能力	78.2%	80.1%

9 今後に向けて

- 今までは、情報の共有、帳票印刷が中心
- 入力、蓄積されたデータの学校経営への活用はまだまだ
 - * 学校経営判断のための資料作成活用へ
- チーム学校実現のために、いろいろな切り口からデータ活用ができるように

ありがとうございました

